

第二協立病院

事務長より挨拶

平成30年度は、診療報酬の同時改定で幕を開けました。国の求める方向性が、より色濃く反映された内容になっていました。今までの改定では、人員人材という事に着目していましたが、今回はそれを生かした医療機関の機能能力に着目されたように感じました。急性期病院は勿論、当院の様な回復期リハビリテーション病院や病棟においても、真に実力の無い病院では、かなり厳しい状況になるかも知れません。今後は当院の様な回復期病院とは言え、急性期病院からより早期に患者様を受け入れ、亜急性期的病院として総合内科診療や専門的診療が行える能力を持たなければ生き残れなくなりました。また国は、地域包括ケアというものを打ち出し、地域で高齢者の方の健康を守ろうと計画しています。高齢者の方の健康維持にはリハビリテーションは欠かせず、入院された時等にも、社会復帰に向け無くてはならないものです。それは高齢者の方に限ったことではありません。我が第二協立病院は、地域のリハビリテーション病院として、この様な使命を果たして参りますとともに、医療法人協和会における司令塔的活動を行っていく所存ですので、よろしくお願いいたします。

事務長 内堀 之弘



新任医師紹介 岡本 敦子 先生

4月より第二協立病院産婦人科に入職しました岡本敦子と申します。3月までは大学病院で研究をしながら、産科を中心に診療に携わってきました。以前にも第二協立病院に非常勤として勤務したことがありますが、外来・病棟ともにきれいで清潔感があり、患者さんにきめ細かいケアをしてくれる親切で向上心あるスタッフに囲まれ、今もやりがいを感じながら仕事をさせていただいております。妊娠・出産・産後のケアや思春期から更年期などの女性のヘルスケアについて、少しでもお力になれるよう頑張りますので宜しくお願い致します。



よろしくお願ひします！

患者サービス向上委員会では、患者さんやご家族の皆さんから、広くご意見やご要望をいただき、病院運営改善に努めていくために、各階に「ご意見箱」を設置しています。お気づきの点がございましたら、遠慮なく「ご意見用紙」にご記入いただき、ご投函ください。ここでは、皆さんからいただいたご意見について、本院にて掲示・ご回答差し上げたものを、ご紹介させていただきます。個人的にご回答差し上げたものや、プライバシーの侵害、公序良俗に反するものと判断されるものにつきましては、掲示を控えさせていただいておりますので、ご了承願います。

ご意見 洗濯するところに、少し荷物をおける台、もしくはイスなどがあると大変助かります。

【回答】 洗濯室にイスや物置台がなく、ご不便をおかけしました。イスと物置台を設置いたしましたので、ご利用ください。



【編集後記】

今年は、新入職員総勢55名を迎える事となりました。職員一同一丸となって医療サービスの一層の向上に取り組んでまいりたいと思っております。今後も皆様方の御指導、御鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。

地域連携推進委員会 高橋 亮太

Smile通信 ~みんなが主役~



第11号

発行日 2018年 6月

病院長より挨拶

この春に入職された皆様、夏場に向かって、体調のコントロールはできているでしょうか。3か月経ちましたが、職場環境に大分慣れましたでしょうか。自らのスキルアップが可能になるにつれて、見る目、考え方も成長して、適応能力が発揮されるようになってきていることと思います。学生時代に思い抱いていたことと、職場の現実とのギャップを感じはじめ、どのように乗り越えてゆこうかと思いついている方もあるかもしれません。昔の中国の哲学者に老子という人がおりました。「爪立つものは立たず、またぐものは行かず」という言葉を残しています。「無理をして、ずっと爪先立ったままでいると疲れてしまいついに立っていらなくなり、大股で先を急いでばかりいると疲れてしまい、結局はそんなに遠くまでは行けなくなってしまうのではありませんか」と言っています。どうでもいい加減ではなく、ちょうど良い加減でものを考える余裕が必要なのだと教えている言葉かもしれません。

新入職員のオリエンテーションの時に、梅・桃・桜を紹介したことをまだ覚えておりますでしょうか。これらの花は、花びらが似ているので、遠くから眺めた場合には、微妙な色合いの違いがあっても、すぐに区別することができないのではないのでしょうか。近くで見れば、「枝から直接花が一つずつ咲いているのが梅」で、「二つずつ花が咲いているのが桃」で、「枝から延びる花柄の先に花が咲くのが桜」であると知っていれば区別できると思います。咲きっぷり、色あい、そよぎ方は異なっていますが、みんなバラ科に属する花です。みんなルーツは同じです。第二協立病院で働く皆さんの職種・職場の分野は違っても、医療法人協和会のスタッフとしてのルーツは一緒です。それぞれの持ち場でスキルアップをして、新しい発見をして、働きがいのある職場にして行ければと思います。

院長 福田 能啓



看護部長より挨拶

平成最後の年が始まりました。第二協立病院としてどの様な一年になるのが期待でわくわくしています。今年は、大きな事故や事件が無く平和な日々が続きますようにと、願う気持ちで一杯です。しかし、2025年が近づき川西市周辺は、益々高齢化が進みます。その様な中、第二協立病院の特色を活かし、地域の拠点病院として多くの患者様にご利用いただける病院でありたいと思います。

そのために、私たちは患者様の受け入れ態勢を整え、信頼される良質な医療を提供しなければなりません。看護部は、チームの一員として、患者様に寄り添い温かい看護・介護を提供して行きます。

今年も昨年同様に多くの新入職員を迎える事ができました。新人たちが、一人前になれるように個々の個性を大切に温かく育てて行きたいと思っております。人材確保が厳しい中、働き続けられるマグネットホスピタルになれるよう努力していきます。

看護部長 友金 泰子



平成30年度 新入職員は総勢55名



看護部:22名 リハビリ:27名 薬剤科:2名 検査科:1名
MSW:1名 診療情報管理士:1名 医事課:1名



神戸フルーツフラワーパーク
[新人歓迎お花見]

看護部
多くの素晴らしい「人財」の皆さんが入職され、皆さんが、看護師として大きく飛躍できるように、私たち先輩看護師も、皆さんと一緒に学んでいきたいと思ひます。

リハビリ
亜急性期から維持期まで、どのような疾患であっても適切で質の高いリハビリ支援が出来るセラピストの育成を目指します。

薬剤科
新入職おめでとうございます。当院の機能が拡大するに連れ使用医薬品も随分と増加致しました。新人薬剤師共々ご入院患者のニードを最優先し、日々取り組んで参ります。

検査科
『新しい発想や若い感性を期待しています。どん欲に、柔軟に、色々学んでください。一緒にがんばりましょう』

MSW
ご入職おめでとうございます。慣れない環境で不安なことが沢山あると思ひますが、ともに頑張っていきましょう。

診療情報管理士
ご入職おめでとうございます。たくさん学び、実りある社会人生活を築いてけるよう、共に頑張りましょう！！

医事課
ご入職おめでとうございます。新しい環境でたくさんの不安はあると思ひますが私たちも一生懸命サポートしますので一緒に頑張りましょう。宜しくお願いします。

日本静脈経腸栄養学会学術大会に参加してきました！



2018年2月22日と23日にパシフィコ横浜で開催された第33日本静脈経腸栄養学会学術大会に参加しました。今回は“移動能力、摂食嚥下能力、栄養状態の関係性の検討”でポスター発表しました。発表の多くは、管理栄養士、看護師、医師が多い中で、ところどころで言語聴覚士の発表がありました。各施設のNST活動は様々で、言語聴覚士も色々な形で介入していて参考になりました。このような機会を与えて頂き、ありがとうございました。

リハビリテーション科 恩田 光平

研修報告

当院は産科から回復期リハビリテーション病棟、一般障害者病棟、緩和ケア病棟、そして透析センターと幅広い分野の病棟があります。毎年看護部では患者様が少しでも安楽になる為に、看護の力で解決できる事はないか、他に良い方法はないか？又問題となっている物は何かを探求する為、各病棟で研究に取り組んでいます。



そして、毎年その成果を院内で発表しており、前年度も3月10日土曜日の午後から、15回目の発表を無事終了しました。又毎年、全国各地で行われる看護学会でも発表しており、今年度もエントリー予定です。委員会では常に新しい風を取り入れながら各病棟の研究のサポートを行い、少しでも看護の質の向上と患者様の安楽に繋げられる様に頑張っています。

研究委員会 井上 理子



腰痛や膝痛を予防しましょう！

今回も「キネステティック」の概念を使った、腰痛・膝痛予防におけるコツをお伝えしたいと思います。第2弾の今回は「時間」というテーマでお伝えしたいと思います。

さて、突然ですが皆さんに質問です。皆さんは“楽に”動くために何か意識をしている事がありますか？実際に、普段から何かを意識して動いている方は、あまりいらっしゃらないかもしれません。ここで、先ほど述べた「時間」に話を戻しましょう。

人も物も動くためには「時間」が必要です。0秒では動くことは出来ません。100mを歩くとします。その100mを5分かけて歩くのと1分で歩く。どちらが楽だと思いますか？やはり沢山時間がある5分で歩く方が楽ですね。短い時間で動くには力がより必要です。「時間」という資源をより使うことで、より少ない力で動くことができるのです。自分自身の動き方（身体の使い方）に注意を向け、ゆっくりと丁寧に、「時間」をより使って動いてみてはどうでしょうか。今以上に身体が楽に動かせるかもしれません。また次回も別の視点からお話し出来ればと思ひます。

リハビリテーション科 小原 健太郎

